

2021年3月理事会議事録

日 時：2021年3月27日（土）14：00～18：15

場 所：オンライン会議・日本考古学協会事務所

出席：辻 秀人・佐藤宏之・佐古和枝・足立佳代・植田 真・大塚昌彦・岡林孝作・亀田直美・河村好光・小菅将夫・惟村忠志・滝沢 誠・田尻義了・谷口 榮・寺崎秀一郎・時枝 務・中嶋郁夫・中山誠二・萩野谷 悟・馬淵和雄・溝口孝司・宮里 修・高麗 正、監事：都築恵美子・橋本裕行、（事務局：林 純子）

欠 席：臼杵 勲

オブザーバー：唐澤至朗・大工原 豊（報告第810号）

進 行：谷口 榮

議 長：辻 秀人

谷口理事から、本日の出席者は25名（理事23名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

中嶋理事から、愛知県の田崎通雅会員が2020年11月2日、愛知県の梶山 勝会員が12月7日、宮城県の佐々木安彦会員が2021年1月26日、神奈川県石田守一会員が2月3日、静岡県市原壽文会員が2月5日、香川県の八木久栄会員が3月4日、埼玉県の吉川國男会員が3月10日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第619号 2021年度日本考古学協会名誉会員の推薦について

佐古副会長から、3月20日（土）に名誉会員選考委員会を開催し、在籍52年で会長を2期務められたことのある菊池徹夫会員を、「名誉会員に関する規定・内規」に照らし、日本考古学協会に顕著な功績があったことから名誉会員に推薦するとの説明があり、審議の結果、原案通り承認され、総会に諮ることとなった。

議案第620号 2021年度永年在籍会員の顕彰に関わる対象者の承認について

佐藤副会長から、表彰される総会時で50年在籍している正会員の顕彰を、「会員の顕彰に関する内規」第2条第1号に則り、第87回総会で1972年度入会者29名を対象に行いたいとの説明があり、原案通り承認された。

議案第621号 2020-2021年度の協会賞選考委員会における正・副委員長の承認について

佐藤副会長から、2020-2021年度開催の日本考古学協会賞選考委員会は、委員長に泉拓良会員、副委員長に佐藤孝雄会員を選出したとの説明があり、原案通り承認された。

議案第622号 2021年度の第11回協会賞の選考結果の承認について

佐藤副会長から、3月14日（日）に第11回日本考古学協会賞選考委員会を開催し、①応募のあった10件すべてを選考対象とすることを確認の上、審査を行った結果、大賞に小畑

弘己氏『縄文時代の植物利用と家屋害虫－圧痕法のイノベーション－』、奨励賞に阪口英毅氏『古墳時代甲冑の技術と生産』及び山崎 健氏『農耕開始期の考古学』の2件を選考した。②優秀論文賞については、英文機関誌編集委員会からの推薦者はなく、機関誌『日本考古学』編集委員会から『日本考古学』第49号に掲載された前田仁暉氏「横槌・掛矢の機能論－近畿地域の原始・古代を中心に－」の推薦があったとの報告があり、審議の結果、原案通り承認された。

議案第623号 機関誌『日本考古学』編集委員会の委員長の変更について

植田理事から、機関誌『日本考古学』編集委員会の委員長に、第52号から時枝 務理事が就任するとの説明があり、原案通り承認された。

議案第624号 新『会員名簿』作成と配布について

辻会長から、会員の岡部隆男弁護士に個人情報保護に関する取り扱いを確認したところ、従来のデータは会員本人の承諾を得た場合にのみ使用可能との回答を得たため、2021年度版会員名簿については、新たに全会員に掲載の可否について確認の上で、本人の承諾を得た項目のみを掲載するとの説明があった。なお、冊子体として作成し、掲載項目については2015年度版会員名簿と同様とするが、昨今の社会情勢に照らしてこれまで伺っていた性別の項目は削除する。また、回答方法は、会員には『会報』に記入用紙を同封して配布し封書での回答、あるいはメールでの回答を依頼する予定であり、名簿作成の依頼文書(案)の提示があった。審議の結果、原案通り承認された。

議案第625号 2021年度予算の承認について

萩野谷理事から、財務会議において各委員会の予算要求の見直しを行い、2021年度予算案は、①一般会計については、収入は新型コロナウイルス感染症の影響により発表要旨売上げ等の減額が想定されるが、2020年度に旅費交通費の使用等が大幅に削減されたことを受けて前年度からの繰越額が増額となる見込みである。支出は、旅費交通費については各事業の要求額を調整し削減した。なお、アジア考古学四学会合同講演会事業については次年度までに各学会の費用分担の整理が求められた。②特別会計の科学研究費補助金については、収入は予算額390万円に対し、予算要求も適切と判断されたため予算要求通りとしたとの説明があり、原案通り承認された。

議案第626号 新入会員異議申し立てに関わる取扱いについて

中嶋理事から、新入正会員の入会審査において、正会員から「入会資格基準に関する内規」適応外の倫理等に関する件で異議申し立てがあった場合の対応について、これまで、倫理綱領の改訂及び対応組織について検討してきたが、そのうち対応組織については、入会資格審査委員会ではなく、迅速に対応する必要があるため、会長・副会長2名・組織担当理事・入会資格審査委員長及び副委員長等が対応することとしたいとの提案があり、原案通り承認された。なお、倫理綱領の改訂については継続審議とした。

議案第627号 山形大学ナスカ研究所の「共同利用・共同研究拠点」申請に関する意見表

明の提出について

寺崎理事から、山形大学ナスカ研究所から「共同利用・共同研究拠点」としての認定申請にあたり、当会に文部科学省への要望書提出の依頼があったとの説明があった。続けて佐藤副会長から、前例に倣い、要望書ではなく意見表明として提出することとしたとの補足説明があり、文案が提示された。審議の結果、一部修正の上、提出することで承認された。

議案第628号 退会会員の承認について

中嶋理事から、北海道の*会員・*会員、宮城県の*会員・*会員、秋田県の*会員、群馬県の*会員・*会員・*会員、千葉県の*会員、長野県の*会員・*会員、岐阜県の*会員、静岡県内の*会員、京都府の*会員から2020年度をもつての退会届、宮城県の*会員、群馬県の*会員、埼玉県の*会員、静岡県の*会員、愛知県の*会員、京都府の*会員、広島県の*会員、鹿児島県の*会員から2021年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。また、2020年度3月理事会議案第563号で2020年度での退会を承認された岡山県の*会員から、退会取消し希望があるとの説明があり、退会前の提出であることから承認された。

議案第629号 事務局職員の退職と採用について

辻会長から、出口まどか主事から本年3月末をもつての退職届が提出されており、事務局の体制整備が急務であることから、後任人事として、本日午前中に佐藤副会長・佐古副会長、高麗常務理事の4名で応募者1名の面接を行い、審議の結果、応募者である近藤絵里奈さんを候補者として推薦したいとの説明があった。審議の結果、出口主事の退職及び近藤さんの採用について、原案通り承認された。

なお、併せてこの機会に事務量の見直しを行い、過剰な手続きの見直し、事務のスリム化及び合理化を図るために、高麗事務局長とも打合せを行い、今後改善を図ることが説明された。

報告第810号 理事選挙制度検討小委員会の中間報告

理事選挙制度検討小委員会の唐澤至朗委員長に出席いただき、これまでの小委員会の検討報告があった。辻会長からは小委員会に、短期的な検討課題として、①緊急時に理事選挙を実施する「危機対応マニュアル」についての検討、②定款と規則の理事定数の不一致の修正、③非立候補者の投票有効性について、個人情報となる被選挙人名簿の配布とともに検討することの3点を喫緊の課題としての対応が求められている。長期的な課題としては投票に伴う1票の格差是正について、意見の相違が認められると推定されるが、継続して審議したいとの説明があった。辻会長から、小委員会と理事会で意見交換の場を設け、理事会では今後、検討議案として対応していきたいとの説明があり、了承された。

報告第811号 2020年度賛助会員等学習会・懇談会の報告

足立理事から、2月20日（土）に賛助会員の学習会及び懇談会をオンラインで開催し、フレンドシップ会員5名・学生会員1名の合計6名の参加を得た。参加者からはオンライ

ンでの実施に一定の理解を示しつつも対面での実施希望があり、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら対面での実施を来年度は計画したいとの報告があり、了承された。

報告第812号 高輪築堤跡に関わる声明発出その後の状況報告と広報活動

馬淵理事から、2月26日付けで埋蔵文化財保護対策委員会として21学会・団体の共同発出「『高輪築堤』の保存を求める要望書」に参加したことが報告された。続けて足立理事から、2月臨時理事会議案第618号にて発出が承認された「高輪築堤跡の全面保存を求める会長声明」について、3月2日（水）に、JR東日本及び文部科学省・文化庁には会長他1名が手渡しで、その他については郵送で発出した。その後、協会事務所で報道機関への対応を行うとともに、会長の声明読み上げ動画を撮影しYouTubeで公開、協会ホームページに掲載したとの報告があった。また馬淵理事から、取材を受けた報道機関に新聞記事が掲載されたこと及び高輪築堤跡の調査状況の報告があり、今後も動向を注視することが確認された。

報告第813号 2021年度第87回総会実施方法等（WG）について

田尻理事から、3月4日（木）にオンラインで2021年度第87回総会開催に関するワーキンググループを開催し、①申込フォームの作成進捗状況及び公開日程を確認した。②オンラインシステム委託業者のトータル企画との協議事項について、Zoomライセンスの必要本数や申込フォームからの登録後の流れの確認、発表者への通知やプレゼンデータの提出方法等を協議した。③新型コロナウイルス感染症の影響により会場の専修大学に入構できない場合の各行事の実施方法について検討したとの報告があり、了承された。

報告第814号 2021年度第87回総会の日程及び理事の役割分担について

滝沢理事から、第87回総会日程及び進行、並びに理事役割分担（案）の説明があった。また、表彰関係事項について確認があり、了承された。

報告第815号 全国関連学会連絡先一覧掲載・学術会議参画依頼について

辻会長から、2020年12月理事会議案第609号で承認された「日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会共同声明」への参加呼びかけ及び考古学関係学協会の連絡網の整備について、3月24日付けで、各理事から連絡のあった学協会に依頼文書を発送したとの説明があり、承認された。

報告第816号 各委員会等の会議及び事業報告（その5）

1 埋蔵文化財保護対策委員会報告

馬淵理事から、2月20日に幹事会を開催し、①港区高輪築堤跡の保存問題について、状況を確認するとともに会長声明の原案を作成した。②2月13日に発生した福島県沖地震に伴う被害状況の報告があった。③徳島市徳島城跡隣接地について埋蔵文化財保護に関する要望書を提出し、回答があった。④安芸市瓜尻遺跡の開発計画について面談を実施し、協議の結果、要望書を提出することとなった。⑤北九州市城野遺跡について状況の報告があり、今後も注視していくとの報告があり、了承された。

続けて、協会員から金閣寺境内土壇状遺構の毀損の申し立てがあった件について、総務会からの要請を受けて埋文委で行った調査内容についての問合せが当該会員からあり、これまでの経緯の説明があった。

2 広報委員会報告

足立理事から、1月22日（金）に委員会をオンラインで開催し、①『会報』No.202の編集状況と目次について確認を行った。②各常置委員会のコンテンツの充実について各委員会に依頼し現在も整理中である。第87回総会ではコロナ禍で図書交換会を会場で実施できないことから、昨年度に引き続き「考古学スクエア」を協会公式サイト上で行うこととした。後日、2021年度は総会時の春、大会時の秋と2回開催することとし、申込み対象者・実施方法等を協議したとの報告があり、了承された。

3 社会科・歴史教科書等検討委員会報告

小菅理事から、2020年12月13日（日）に委員会をオンラインで開催し、①第87回総会時に行うセッション内容について協議した。②2021年度予算要求案を作成した。③協会ホームページ「考古学と教育」の掲載コンテンツについて協議した。④2020年度小学校教科書の検討を進めたとの報告があった。また2021年3月13日（土）に委員会をオンラインで開催し同様の内容について協議し、教科書会社への訪問について計画中であるとの説明があり、了承された。

4 英文機関誌編集委員会報告

溝口理事から、3月14日（日）に委員会をオンラインで開催し、①『Japanese Journal of Archaeology』（以下、JJA）Vol. 8, No. 2、及び次号Vol. 9, No. 1の編集進捗状況の確認を行った。『JJA』Vol. 8, No. 2については3月中旬に刊行予定である。②2020年度科学研究費補助金の予算執行状況と執行予定について確認した。③学術振興会の中間評価を受け、改善要求の対応について確認した。④翻訳料・校閲料の基準化について、学術振興会の指導に基づき正当性の確保に向けて協議した。⑤日本語文献リストの体裁について改善案を策定したとの報告があり、了承された。

5 機関誌『日本考古学』編集委員会報告

植田理事から、2月28日（日）に委員会をオンラインで開催し、①第52号の掲載原稿状況について確認した。②第13期査読委員の任期が終了となるため、第14期査読委員の候補推薦が必要なことから、手続きを進める。③機関誌『日本考古学』のJ-stage掲載について冊子体の販売委託会社である吉川弘文館への対応や著作権等の課題があることを確認したとの報告があり、了承された。佐藤副会長から、機関誌のオンライン掲載の著作権に関わる確認が求められた。

6 研究環境検討委員会報告

亀田理事から、1月24日（日）及び3月13日（土）に委員会をオンラインで開催し、①第87回総会時のセッション・ポスターセッションについて協議した。②博物館法の改正に

ついて、矢島研究倫理部会長から情報提供があり、今後注視する必要性があることを確認した。③矢島研究倫理部会長からアイヌラウンドテーブル（以下、アイヌRT）「研究倫理検討委員会」準備委員会の報告を受けた。④第87回総会時のセッション実施についてチラシを作成し、大学や高校宛てにも送付するとの報告があり、了承された。続けて、佐藤副会長からアイヌRTの今後の予定、及び博物館法の改正について補足説明があった。

報告第817号 正・副会長の後半期の総括報告

佐藤副会長及び佐古副会長、辻会長から、定款第24条第3項の定めにより、それぞれ2020年度後半期の各種行事・会議の参加等、職務執行状況について報告があった。

その他

1 2021年度金沢大会について

河村理事から、2021年10月に開催予定の金沢大会について、対面と併せてオンラインでの開催方法を検討中であるとの報告があった。

以 上

